

# 東日本大震災津波伝承館

## —いわて TSUNAMI メモリアル—

東日本大震災津波伝承館（いわて TSUNAMI メモリアル）副館長  
熊谷正則

### 1. はじめに

2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災津波は、死者・行方不明者22,303名、住家の被害は全壊122,005棟、半壊283,156棟など、甚大な被害をもたらした。（2021年（令和3年）3月1日現在、消防庁）。

「東日本大震災津波伝承館—いわて TSUNAMI メモリアル—」は、2019年（令和元年）9月22日に開館した県営の施設であり、この未曾有の大災害の事実と教訓の伝承を目的として、岩手県陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園内に「国営追悼・祈念施設」及び「道の駅高田松原」と一体的に整備された。

### 2. 東日本大震災津波伝承館—いわて TSUNAMI メモリアル—の使命

岩手県は、津波の常襲地域である。1896年（明治29年）の明治三陸地震津波、1933年（昭和8年）の昭和三陸地震津波、1960年（昭和35年）のチリ地震津波、そして、2011年（平成23年）の東日本大震災津波と、数十年に一度の頻度で大津波に襲われ、岩手県での死者・行方不明者は合わせて2万7千人にも上る。近代以降の日本において、津波による犠牲者が最も多いのが岩手県であり、二度と津波による犠牲者を出さないための取組を進めていくことは県としての責務である。なお、2011年（平成23年）東北地方太平洋沖地震に



「国営追悼・祈念施設」、「東日本大震災津波伝承館」及び「道の駅高田松原」全景

よる災害の名称を、政府は「東日本大震災」と定めているが、岩手県では、津波被害の甚大さに鑑み「東日本大震災津波」と表記することとしている。

当館は、自然災害の歴史に学び、東日本大震災津波で得た教訓や、防災・復興に関する先進的な取組を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を共に実現していくことを目指している。自然災害から未来の命を守るために、世界の防災力の向上に貢献していくことが使命であり、これまでにいただいた支援に報いることでも考えている。

### 3. 東日本大震災津波伝承館—いわてTSUNAMIメモリアル—の展示内容

当館の常設展示は、「命を守り、海と大地と共に生きる～二度と東日本大震災津波の悲しみをくり返さないために～」をテーマに、四つのゾーンで構成されている。

#### ○ゾーン1「歴史をひもとく」

各種観測・解析データや津波シミュレーション等により、地震・津波を地球の活動から探り、津波堆積物を含む地層の剥ぎ取り標本や年表等により、津波災害の歴史と津波対策の歩みを振り返り、この地で先人たちが育んできた知恵や技術、文化を見つめ直し、自然とともに暮らすということを改めて考える。



ゾーン1「地球の活動と地震・津波」展示

#### ○ゾーン2「事実を知る」

被災の現場をとらえた写真や映像、被災した実際の物、被災者の声や記録などを通して、多くの尊い命を一瞬のうちに奪い去り、家やまち並み、そこに刻まれた思い出までも根こそぎ押し流した津波の脅威、東日本大震災津波の事実を見つめる。



ゾーン2「被災物が語る津波の威力」展示

#### ○ゾーン3「教訓を学ぶ」

東日本大震災津波が起きたその時、人々はどのようにこの大災害に向き合ったのか。このゾーンでは、「逃げる」「助ける」「支える」など、東日本大震災津波に直面した人々の行動をひもとくことで、命を守るための教訓を共有し、一人ひとりが自ら考え、行動することの重要性を体系的に学ぶ。



ゾーン3「東北地方整備局災害対策室」展示

#### ○ゾーン4「復興を共に進める」

国内外からいただいている多くの支援に対する感謝の気持ちとともに、東日本大震災津波を乗り越えて前へと進んでいく被災地の姿を伝える。ま

た、動線は「道の駅高田松原」の販売エリアへとつながり、来館者が復興の今の姿を感じ、身近に触れることができる場となっている。



ゾーン4「復興を共に進める」展示

#### 4. 東日本大震災津波伝承館－いわて TSUNAMIメモリアルーの役割

当館は、岩手県における東日本大震災津波の全体像を伝え、この未曾有の大災害から得た教訓を今後の防災・減災へ生かしていくための施設であり、また、館内には解説員が常駐し、来館者の理解を助け、防災・減災の行動へとつなげられるようサポートしている。

しかし、東日本大震災津波の事象は幅広く、災害の様相は地域によって、また、人々が置かれた状況によっても異なるものであり、当館で伝えら



解説員による展示解説の様子

れることは限られている。当館で全体を俯瞰したうえで、様々な現地や施設を訪れ、また、語り部等の話を聞くことによって、より一層、理解を深めていただきたい。

#### 5. おわりに

当館には、開館以降30万人（2021年（令和3年）3月時点）を超える多くの方に来館いただいている。東日本大震災津波発災から10年の月日が経過し、今後、震災津波を知らない世代も増えていく中、次代を担う子供たちをはじめ、国内外の人々が当館を訪れ、震災津波について学び、そして、その学びが世界中に広がり、未来に受け継がれていくことを願っている。